

第2回小郡市総合振興計画審議会 議事概要

日時：令和2年11月17日（火）13：30～

場所：小郡市役所 西別館3階会議室

No.	委員氏名	所属団体・役職名等	備考
1	藤門 宏	小郡市区長会 校区代表（大原校区）	欠席
2	富崎 高志	小郡市商工会 副会長	欠席
3	松本 浩	小郡市観光協会 副会長	
4	木下 周	社団法人みい青年会議所 理事長	欠席
5	島田 昇二郎	小郡三井医師会 会長	会長
6	吉塚 邦之	社会福祉協議会 会長	欠席
7	近藤 忠義	民生委員・児童委員協議会 会長	副会長、欠席
8	廣瀬 崇	小郡市保育協会（味坂保育園園長）	
9	吉岡 智美	小中学校校長会（東野小学校校長）	
10	釘本 和子	おごおり女性協議会 会長	
11	執行 悟	久留米広域消防本部三井消防署 署長	
12	有村 千裕	有村文章塾代表	
13	松下 愛	久留米大学地域連携センター学長特命講師	
14	近藤 一代	公募委員	
15	吉田 喜三郎	公募委員	

事務局	氏名	役職
	加地 良光	小郡市長
	今井 知史	経営政策部長
	坂本 慎二郎	経営戦略課長
	白石 和章	経営戦略課 政策推進係長
	山本 豊	経営戦略課 政策推進係 担当

傍聴者 1名

【配布資料】

- ・資料1 「第6次小郡市総合振興計画の策定について」
- ・資料2 「第6次小郡市総合振興計画策定の経過及び現状」
- ・資料3 「小郡市総合振興計画審議会条例」
- ・資料4 「第5次小郡市総合振興計画後期基本計画の成果指標（令和元年度実績）」
- ・資料5 「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金実施計画事業」（第1次、第2次）
- ・「第6次小郡市総合振興計画審議会委員名簿」

【 式 次 第 】

1. 会長あいさつ
2. 市長あいさつ
3. 報告
 - (1) 第6次小郡市総合振興計画の策定期期の延期について
4. 意見交換
 - (1) 新型コロナウイルス感染症の影響について
5. その他
 - (1) 次回審議会の開催時期について
 - (2) 議事概要の確認について

《 議 事 内 容 》

3. 報告

- (1) 第6次小郡市総合振興計画の策定期期の延期について
～(資料1)、(資料2)、(資料3)、(資料4)により、新型コロナウイルス感染症の影響により市民の価値観や社会情勢等が大きく変化することを踏まえ、策定期期を2年延期したいこと等を事務局より説明～

質疑なし

4. 意見交換

- (1) 新型コロナウイルス感染症の影響について
～(資料5)により、新型コロナウイルス感染症に係る小郡市の取組みについて事務局より説明～

委 員：小郡市には転出者が一定いるので、転出者が減るように魅力的なまちをつくるには、もっと働く場所と食事や遊ぶ場所が必要だと思う。小郡市は調整区域が広範囲で都市計画法の規制で、店舗などの開発が制限されている。

事 務 局：コロナ禍では、密を避けるためにワーケーションなどのような新しい働き方も出てきている。これまでは、様々なものが都市へ集積されていたが、密を避けるために、地方都市が見直されるようなこともあるのではないかと。

委 員：教育の観点で話をしたい。今、見えないところで影響を受けているのは子ども達だと感じている。マスクをしている関係で、子ども達は口元が見えず、目だけで判断しないといけないため、意思疎通が難しい。マスクをしていることで声も聞こえにくく、以前より、トラブルになることが増えたと聴く。今回、小学校の校長先生や保育園の園長先生が来られているが、小郡市は子育てに力を入れて、子どもを抱えている親の困り事を聴く機会をつくっていただくと良いと思う。自然環境も良いので、子育て世代は、教育環境や子育て環境をみて、居住地を選ぶということがあるため、転入者が増えることにつながると思う。

委 員：市では、今後の市民の価値観がどう変わっていくと推測しているのか。

事務局：これまでの都市型、密集型のまちづくりからゆとりある環境で家族との過ごし方を大事にするまちづくりを重視するような価値観への変化が今回みられているように感じている。コロナ禍で家族と接する時間が増え、家族の仲が良くなったというニュースも出ていた。働くこと、住むこと、家族でどのような生活を送るかということのバランスについて、変化が出てくるのではないかと思っている。その新しい価値観の中で、小都市の環境がより価値があるものになると思っている。

委員：小都市は観光地が少ない。何かを新たに作り出すというより、小都市に来た際に、「いいね」と思われるまちづくりが必要であると思う。お客さんはみんなマスクをされていて、消毒も徹底している。新型コロナウイルス感染症の影響としては、店舗の営業時間の短縮等の働き方が変化している。ある意味、コロナ禍だからここまで踏み切れたと思うが、コロナ後も元に戻せないのではないかと思う。行政でもコロナ禍で様々な見直しがされていると思うが、この見直しを大事にして欲しい。また、小都市は財政的に厳しいようだが、工業用水の関係で工場等を誘致することは難しいようなので、私たちのような小売業が増えることで、市外から人を呼び込めるようになり税収にもつながると思う。都市計画の規制で、店舗が出店しにくい状況であるので、変えていただきたい。

事務局：非常に難しい課題だが、新政権では規制改革に力を入れていく方針になっているようなので、今後、まとめていただく総合振興計画の大きなビジョンの中で、市としてやれるものはやっていきたいと思う。

委員：大学生の孤独は大きい課題だと感じる。大学に入学し、一度も大学に行かずに画面の中で授業を聴いている状況がある。友達もできないまま、画面の中で顔を見たことがあるだけの関係で、例えば2年後に元に戻った場合、話しかけることができずに、そのまま社会人になった場合、どのように社会人として歩いていくのかと考えた時にすごく心配になる。学生がすごくつらいところにいると思うので、そういう若者が交流する場所や集う場所が必要だと思う。特に就職活動を扱っているが、新型コロナウイルス感染症の影響で心が病んでいる子どもが見受けられる。例えば、東京に就職活動に行くことを過剰に躊躇する子や、就職活動を途中で中断した子もいる。相談を受ける際も、大学の方針がリモートで行うようになっているため、直接会って話すことも出来ず、直接助けてあげることができないということがある。キャリアに関する事など画面越しで、一生懸命拾うようにしているが、大学の枠を通すと制限がある。これから社会人になる大事な時期に孤独な状況となっているので、コミュニケーションの場が重要であると感じている。

委員：昨年、若者を集めて、ワークショップを開催したが、その中で奨学金をもらいながら、アルバイトを2つ掛け持ちしている学生がいた。今、その若者がどうしているのかすごく心配している。そういう若者を支援する内容

が第5次小郡市総合振興計画には無いような気がする。新型コロナウイルス感染症の影響で多くの非正規の女性たちが雇止め合っている現状がある。また、コロナ禍で、予想以上に女性の家事や育児の負担が増えている、これまでの男女共同参画に関する施策で女性は救われたのか疑問に思っている。審議会等の女性委員を増やすのはもちろんのこと、さらに地域や企業の中で女性と男性が共に働き続けることを一緒に考えるような施策を考えて欲しいと思う。

委員：大学では、ゼミの参加者数が20人程度、どうしても学校でしかできない実習、少人数で開催するもの以外は全てリモートで実施している現状である。学生から受ける相談が最近では深刻なものが多くなっている。病院に行かないといけない学生も増えている現況である。そのような中、筑後市、うきは市の小学校に大学生を派遣する取組をしていて、悩みがある子や勉強が遅れている子の支援をしているが、実は大学生が助けられている。新型コロナウイルス感染症の影響で、授業や活動などを通して無意識に出来ていた学生をつなぐの輪が無くなっている状況である。大学生がどうして久留米市に残らないのかというアンケートを実施した。アンケート結果からは地元に興味が無いということがある。5年前は卒業後、福岡市に行っていたが、今は東京に行っている現状がある。大学生が地元に残りたいと思うような対策を行っていく必要がある。対策にお金を使うというより、学生にやりがいをもって活動に参加してもらうことが重要である。人からさせられているというのではなく、自分が手伝ったことで形が残るものでないといけない。やりがいがないと学生の満足度が上がらない現況がみられる。小郡市でも学生が七夕祭りに参加したとき、最初はやる気がなかったが、関わった後は変わった姿を見せてくれるようになった。今後、新型コロナウイルス感染症の動向を見て、今後も小郡市の取組みに参加したい。

委員：コロナ禍の中でも小学生を対象に寺小屋を実施しているが、気付いたことがある。新型コロナウイルス感染症の影響で、3月2日に休校になった際、小学生の時に寺子屋に参加していた子ども達が、現在、高校2、3年生になり、休校で子ども達の居場所が無くなったり、保護者も大変になるので、寺子屋をやろうと声をかけてくれた。緊急事態宣言が出てからも、毎日、寺小屋を開け続けることができた。寺子屋に参加してくれた高校生の中に良い思い出があるから、自らやりがいをもって来てくれたと思う。これまで、寺子屋をやってきて本当に良かったと実感した。あと、私も大学で授業をしているが、現場での実習ができていないので、現場を生中継しながら、リモート授業を行った。リモート授業の方が保育者の動きがよく見えたという意見もあった。これまでと、少し考え方を考える必要があるのかなと思っている。小郡市には小郡市保育協会という団体があり、私立と公立の全ての保育園が加盟していて、全国的にも珍しい組織である。各保育園間をお

互いに公開して、保育園同士で研鑽し合い、保育の底上げが出来てきた。そこで、小郡市保育協会として、インターンシップ制度の取組を進めていきたいと考えている。日誌を書いたりするものではなく、職場体験のように子どもに接することで意欲を持ってもらえるようなものにしていきたい。今の環境を生かしながら、保育士を確保していければ、安心して子どもを預けることが出来るようになり、人が集まって、他の産業も伸びていくのではないかと思う。

委員：新型コロナウイルス感染症が収まった後に、どのようにするかということについても、考えていかないといけないと思う。都市計画の見直しについては、国土交通省や福岡県への手続きに時間がかかるが、高齢化も進み財政的にも厳しくなると思うので、多様な民間の活用が出来るような場所をつくって欲しいと思う。

委員：学校では3月から5月までの3か月間の休校を受けて、非常に混乱した。子ども達の学びを保障するということから、子ども達が安心、安全に通学できるということを第一に考えて取組を進めている。今年度、たくさんの予算措置をいただいて、非常に助かっている。コロナ禍では、子ども達は人と人とのふれあいの中で育つということを1番感じている。小郡市の良いところは、地域の人、モノ、コトを学校教育の中に取り入れて、地域全体で子ども達を育てていただくというのが特徴である。今年度は、各学校でそれが出来ないということが悩みであった。その中で、感染対策をしながら、どのようにして、地域の人、モノ、コトを各学校に戻すことが出来るか知恵を絞りながら少しずつ実施している。学校だけでは、子ども達の成長は育めないなので、協働のまちづくりや人権のまちづくり等の地域の方々に協力いただいている、地域の力というものが小郡市の良い特徴であると感じている。

委員：本日は活発にご意見をいただき、ありがとうございました。コロナ禍において、様々な活動の中で、困難な状況があることが良く分かった。

今後、ワークショップやアンケート等でも市民の声をしっかりと拾い上げて、第6次総合振興計画を策定していただきたい。

3月でコロナの状況が始まって1年が経過する。その経験の中から来年度は、これまでと違うことが出来るようになると思う。福岡県内においては、これまで感染を抑えることが出来ている。コロナは恐ろしい病気だが、マスクと手洗いなどでしっかりと対策をとることが出来る。

小郡市においては、3分の1の医療機関がコロナの診療検査の協力医療機関になっているが、市民の方にも診療の際のルールを守っていただいて、これからの試練の冬の時期を乗り越え、春を迎えたいと思う。

5. その他

(1) 次回審議会の開催時期について

→次回開催は、12月議会の議案の結果を踏まえ、日程が決まり次第、案内する。

(2) 議事概要の確認について

→前回の議事概要の確認を依頼する。また、今回の議事概要の確認を依頼する。

-----議事終了-----